

会 議 録

名 称	令和5年度 第2回 登米市部活動地域移行等検討委員会
開催日時	令和6年1月24日(水) 午後1時56分 開会 午後4時15分 閉会
開催場所	中田生涯学習センター 学習室
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登米市小学校長会長(登米小校長) 秋葉 徹 ○ 登米市中学校長会長(佐沼中校長) 及川 幸男 ○ 登米市中学校体育連盟会長(豊里小中校長) 長倉 清敬 ○ 特定非営利活動法人登米市体育協会会長 関 壮一 ○ 登米市陸上競技協会 会長 飯塚 敏郎 ○ 登米市サッカー協会 3種育成部長 尾上 健 ○ 登米市野球協会 会長 工藤 初夫 ○ 登米市バレーボール協会 会長 小野寺 彰哉 ○ 登米市ソフトテニス協会 事務局 佐藤 孝 ○ 登米市卓球協会 会長 門脇 昭雄 ○ 登米市ソフトボール協会 理事長 鈴木 正彰 ○ 登米市剣道連盟 会長 熊谷 敏明(代理 鈴木 光潮) ○ 登米市アーチェリー協会 事務局長 芳賀 裕考 ○ とめ漕艇協会 副理事長 富士原 勝彦 ○ 登米市スポーツ少年団本部 本部長 木村 健喜 ○ 登米市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会長 佐々木 悦郎 ○ 登米ジュニア吹奏楽団長 只野 正昭 ○ 元中学校美術教諭 主任児童委員 及川 英之
事務局等職員 職・氏名	<ul style="list-style-type: none"> ○登米市教育委員会 教育長 小野寺 文晃 学校教育課長 猪股 勝徳 生涯学習課長 守屋 乃扶子 生涯学習課 主幹 高橋 美香 生き生き学校支援室長 林 宏也 生き生き学校支援室 主事 山内 光弘
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 教育長挨拶 教育長 小野寺 文晃 3 会長挨拶 会 長 長倉 清敬 4 報告・説明 <ul style="list-style-type: none"> (1) 中学校の休日の部活動地域移行に関する周知資料について (2) 児童生徒、保護者、教職員へのアンケートについて <ul style="list-style-type: none"> ○ 登米市ソフトテニス協会 事務局 佐藤 孝 ・ アンケートの実施時期は。 <p>(事務局)</p> <p>→ 再来週には実施し、その結果は第3回の検討委員会の際にお知らせしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 元中学校美術教諭 主任児童委員 及川 英之 ・ 5番目の設問ですが、どちらかというスポーツ中心に、まとめられている。例えば、美術部に入っていて美術をまたやらせた

いという子供や親がいた場合に、例えば「創造活動の喜びを味わわせる」とか、「感性を豊かにし豊かな情操を養う」などの設問があるとよい。

(事務局)

→ 参考にさせていただく。

(3) 先進地区の取組について

5 協議

(1) 資料及びアンケートに関する意見交換について

○ 登米市スポーツ少年団 本部長 木村 健喜

- ・ 先生たちがこの土日の部活動の地域移行に「賛成なのか。」「反対なのか。」聞いてみたい。子供たちや保護者にも聞けるのであれば聞いてみたい。
- ・ 部活動の地域移行ということで、国がスタートしたが、途中から、移行ではなくて、「別な種目もあり」というような言い方になってきた。部活動の地域移行という言葉は適切なのか疑問である。アンケートを取った後に新たな種目をやりたいということになった際に対応はどうしていくのか。
- ・ 活動費用負担については、保護者の負担はないのではないか。「どれくらいが妥当か」と聞くのはどうか。
- ・ 令和3年に、スポーツ少年団本部で、市内の中学校の生徒たちに、アンケート調査を行った。中学生の8割は運動部で、2割が文化部と答えていた。その運動部の8割の子供たちの半分は、スポーツ少年団や地域のクラブの活動をしている。そのようなアンケートの結果も参考にしてはどうか。

○ 登米市ソフトボール協会 理事長 鈴木 正彰

- ・ 先生方へのアンケート項目「無償のボランティアですか」「兼職兼業ですか」という内容を見ると先生方は基本的に土・日の部活動には携わらないと読み取れるが、大会にも参加しないのか。そのような、方向性が明確にないとアンケートに回答するのは難しいのではないかと。中体連への関わりについても不明確である。

○ 登米市総合型スポーツクラブ連絡協議会長 佐々木 悦郎

- ・ 先生方が平日に部活を指導し、休日に大会があった際に先生方が参加しないということになれば、先生方以外のボランティアの方々が責任を負わなくてはならない。そのような際の保障や移動の問題等が発生する。中学校であれば義務教育の中にスポーツがあるという観点からすると大会に教員が参加しないのは考えられない。

○ 登米市バレーボール協会 会長 小野寺 彰哉

- ・ 私はまず本質の議論が必要であると考えます。「登米市としての学校部活動の方針とは何か。」「部活動の位置付けはどうするのか。」それをきちんと踏まえた上でないと地域移行の制度設計ができないのではないかと。
- ・ 小学校5、6年生のアンケート内容の用語「地域クラブ活動」「部活動」「スポーツ少年団」「クラブチーム」を理解できるのか。また、地域移行のクラブチームがはっきりしていない中で判断が可能なのか。
- ・ 論点整理が必要ではないかと。何について話し合う。前回も今回と同様、意見交換という協議内容であるが、それらの意見をどうしていくのかが大切である。
- ・ 前回の資料が22ページであったが、市の考えがロードマップの1ページだけであった。県と国の方向性を踏まえて市としてどう考えて、そして委員会で何を検討していくというのが1つの道筋かなと考える。

- ・ アンケートは必要であると考えますが、落としどころが必要である。落としどころを踏まえて、何を聞きたいのかそういうところを整理した上でアンケートをとっていく必要があり、その辺は慎重にやるべきだと考える。

○ 登米市中学校長会長（佐沼中校長） 及川 幸男

- ・ 1月の職員会議で質問があり、「部活動の地域移行についていろいろ取り上げられているが登米市ではどうなっているのか」という質問があった。現場の我々にとっても先が見えてない。
- ・ 部活動については、全員が何かしらの顧問になっており、一生懸命携わってもらっている。しかし、部活動の関わり方に不安を持っている先生方も、当然ながらおり、そのような先生方は、その部活動の地域移行の大きな期待感がある。
- ・ 一方で専門的に活動してきた先生方にとっては、無償ボランティアでも関わりをぜひ持ちたいというように考えている。

○ 登米市中学校体育連盟会長（豊里小中校長） 長倉 清敬

- ・ 中体連との絡みというところなんです、令和2年から部活動の地域移行の構想が出た。その後、令和3年の3月ぐらいに、スポーツ庁から中体連の大会に一般のスポーツクラブの参入の方向性について新聞報道があり、次の年から、とにかく令和5年度前に、スポーツクラブを参加させなさいという内容であった。令和4年度から準備を進め、令和5年度から6種目20団体が参加した。しかしながら各47都道府県で温度差があり、全く参加させていない地区（県）があったり、既にスポーツクラブをすべて受け入れたりしているところもある。
- ・ 都市部では、民間のスポーツクラブの参加を認めているが、都市部以外はそういう受け皿がなく、指導者の問題や責任の問題等が壁となり中体連への参加が難しくなっている。
- ・ 宮城県は、中体連の参加の要件の1つとして、自治体に認められたスポーツクラブについては、県大会への出場が可能である。要件の2つ目として、例えば水泳などは、学校に部活動がないために民間のクラブなどで活動している子供たちについては、既得権もあるので、それは認めている。これらの2つの要件については、子供たちや団体が、県の中体連にエントリーをした上で参加の可否が行われている。しかしながら、クラブチームの多くが参加できるわけではない。宮城県では、令和6年度は、28団体が参加する見込みであるが、登米市には今このように話してる段階なので、エントリーは1つもない。
- ・ 例えばサッカーやバドミントンなどの種目は、郡市中体連を経ないで直接県の中総体に出場できるので、協会（競技団体）の方で予選をやってくださいという種目も出てきている。サッカーは、来年度、県内で3チームクラブチームとして参加する。
- ・ 国の方としては、少子化によって、部活動が維持できなくなってきたので、その子供たちがやりたい種目をできるだけできるような仕組みを学校の枠を超えてつくることを目的としている。私も賛成だが、十分な説明がないままに中体連の全国大会にクラブチームの参加が可能となってしまったことは残念に思っている。
- ・ 中体連と地域移行との関りについては、平日指導している先生方が不参加の中で大会に出場するのかということに関しては、正直言って、まだこの段階で私達も何とも言えない状態である。ただ県の大会には、もし登米市でそういうクラブができれば、市や県の大会に出場することが今後は可能になっていく。
- ・ アンケート調査に関する事務局の考え方はどうなのか。

（事務局）

→ アンケート調査に関しては、県や国のガイドラインを受け、登米市として地域移行は進める方向である。そのために、参加なのか反対なのかというアンケート内容は示していない。また、土日の地域移行は、遅かれ早かれ子供たちや保護者、地域の皆様の意見を聞きながら、できるところからやっていくという方針を前回の会議で教育長から示されており、そのような方針も含めたアンケート内容となっている。また、登米市の方針については、十分な検討がないままガイドライン等を出してしまうと、それに則って進めることとなってしまう。ガイドラインやリーフレット、チラシ等は、ロードマップの計画にも示しているが、検討委員会の話し合いを受けて、来年度作成していく予定である。アンケートについても来年度の予定であったが、前回の話し合いを受けて取ることであり、アンケート結果を受けて何かを確定するわけではなく、次回の検討委員会や来年度の話合いの検討材料の1つと捉えている。

→ 文部科学省から部活動の地域移行という話が出て、最初は令和7年度に実施という方向性であったが、それができるところからというところで見直しが図られている経緯がある。大会をどうしていくのが整理される前に土日の部活動の地域移行の話が進んでしまい難しい面が多々あるが、多くの意見を聞きながら進めていきたい。

→ 教育長は、まずはできるところから深くゆっくりやっていくことを示している。土日だけでも、本来やりたい活動ができるような方向性を第一に考えて進めていくので、忌憚のないご意見をお願いしたい。

○ 登米市中学校体育連盟会長（豊里小中校長） 長倉 清敬

・ 部活動の費用負担方法についてはどうなっているのか。

○ 登米市中学校長会長（佐沼中校長） 及川 幸男 様

・ 基本的に、各部活動や個人持ちの用具類は当然ながら自己負担となる。中体連の総体や春季大会の旅費、宿泊費については市の方から出してもらっている。中体連そのものへの負担金も個人負担になっているが、活動そのものに関しては学校によって違っており、PTA会費の中から1割ぐらいずつ負担しているところもある。

（事務局）

→ 学校の方では、及川校長先生の発言の通りPTAの活動、生徒会から活動経費が出ている。それ以外に部活ごとに保護者会が組織されており、その中で月会費を集めたり、移動の際に車代を出し合ったりしている。また、ユニホーム基金等を独自に集めている。

○ 登米市中学校体育連盟会長（豊里小中校長） 長倉 清敬 様

・ アンケートについてはどのような方向で取っていくべきか。

○ 登米市ソフトボール協会 理事長 鈴木 正彰 様

・ アンケートのすべてに「県のパンフレットを読んだ上で～」という文言入っている。ただ、これを入れてしまうと明日からでも始まってしまうという捉え方をする人はかなり出るような気がする。そういう意味では、アンケート内容は検討材料にするということを明確にしてはどうか。

（事務局）

→ 県のパンフレットについては、校正の段階で、具体的に何年度から実施という文言が入っていた。しかし、そのような文言が入ると市町村が進める上で無理が生じることから、期日的な文言を削除してもらっている。今後検討材料にしていくということを付け加えながら調査をしていく方向ではどうか。この会議の中でパンフレットに盛り込む文言やアンケートの内容等、具体的な意見を出していただくとありがたい。

○ 登米市ソフトテニス協会 事務局 佐藤 孝 様

・ 進む方向という部分に関しては理解しているが、いろんな意味で分からな

い部分が多々ある。テニス協会の方は地域移行の話をしており、会合を開く中で、何人かの方には協力をもらえている。

- ・ 外部指導者やスポーツ少年団の指導者は重なっている。部活動の地域移行が入ることによって指導者の時間が費やされる。できるだけ協力したいという雰囲気はあるが、今回の部活動の地域移行を進める上で油代や謝金等、登米市で明確にして進めてほしい。また、今後、人材育成の視点からもこれを機に予算化を検討してほしい。
 - ・ 登米市のテニスでは、スポーツ少年団には半数が所属している。所属していない子供たちの保険についてどうするのかということも話題となっている。このように、いざ始まったときに不安な部分が多々あるわけで、細かいところを明確にした上でスタートをしないと次々と問題が出てしまうのではないか。
 - ・ 種目別ではあるが学校の顧問の先生方と話し合いをしたい。お互いの考え方や協力体制を明確にしないと子供たちの活動が制限されてしまう可能性がある。
- 登米市中学校体育連盟会長（豊里小中校長） 長倉 清敬
- ・ 今後の方針等を踏まえていかないといけないということで貴重なご意見をいただいた。そうするとアンケートを実施する上で今こういう構想があり、将来的にはこういう方向性を目指しているということを明確にする必要がある。また、質問については、「部活動の地域移行という言葉は聞いたことがありますか」ぐらいのところから質問し、「どこまで知ってるか」「どういう力を子供たちに付けさせたいか」等を質問し、来年度の準備委員会の検討に生かしていくという考え方ではどうか。
- 登米市バレーボール協会 会長 小野寺 彰哉
- ・ 大切なことは、素案を基に議論しながら、よい点や改善点を議論していく必要がある。前回の記録を見てもイメージができないとか、生徒、保護者に説明できないということがあった。この議論が難しいところは、相反するものが存在していることである。部活動は学校教育であり、スポーツ少年団は、生涯学習である。そして、公費負担が可能なのかや受益者負担なのか等、非常に複雑な会議であることから、その辺を整理した上で前に進めるとよいのではないか。
- 元中学校美術教諭 主任児童委員 及川 英之 様
- ・ 部活動の地域移行の事業実施の法的な根拠はと言われると、学校の部活動が学校教育法を、それから地域クラブ活動が社会教育法となるわけであるが、そういうことからいろいろ考えていかないといけない部分もある。話し合いを1時間程度行い、新たなステップに移ってということではなく十分な議論が必要であると考え。やはり登米市として方針等を固めてから動き出しても遅くはない。よりよいものをつくるために今一度、議論する必要がある。
- 登米市中学校体育連盟会長（豊里小中校長） 長倉 清敬
- ・ 事務局からの説明で部活動の地域移行の開始年度は設定しないと言うことで説明があった。登米市に合った形という話があったので、基本的には、慌てないで進める方向であると認識している。アンケートについては、国としてこういうふうな構想があって登米市でもそのような方向に進んでいくんだけれども、ちょっとご意見をいただきたいというような中身がよいのではと感じた。
- 登米市陸上競技協会 会長 飯塚 敏郎
- ・ これまでの話し合いを聞いて、戸惑っている部分がある。中学校の部活がなくなるわけじゃないんですよね。
- 登米市中学校体育連盟会長（豊里小中校長） 長倉 清敬
- ・ まずは、土日の部活を地域移行すると記されている。

- 登米市陸上競技協会 会長 飯塚 敏郎
 - ・ 例えば陸上だと、大会は土日である。そうすると、顧問の先生方は付き添いをしなければならないような状態ではないのか。大会に出る際は、一般の我々にお願いして出るわけではないはずであり、あくまで部活の延長に試合があり、そこまで含めたのが部活ではないかなと考える。その辺の先生方の考えも聞いてみたい。また、陸上の顧問の先生方と試合のないときはどのような活動を望むのかや種目別の合同練習会を実施するなど、今後の子供たちの成長を助けるような形で部活動の地域移行に取り組んでいくのが望ましいと考える。
 - ・ このアンケートを見ると、新たなものを始めようというアンケート内容でないかなという感じがする。現場の先生方の意見が取り入れられないような内容であり、子供たちも戸惑うようなアンケートなので、もう一度考え直して欲しい。
 - 登米市中学校体育連盟会長（豊里小中校長） 長倉 清敬
 - ・ アンケートについては、1回目の調査ということで慎重に取るというようなどころでよいか。
 - 登米市中学校長会長（佐沼中校長） 及川 幸男 様
 - ・ このアンケートだけでは、正直、登米市の今の動きが見えないので、リード文などで示してはどうか。前回の検討委員会では、まずは、部活動地域移行に対して子供たちや保護者、先生方はどう考えているのか知りたいというご意見があり、今回のアンケート調査に至ったと認識している。具体のところは、そのアンケート結果に基づいて、来年度以降、更に考え、深めていくとよい。
 - ・ この会議を持つこと自体も、市民の方々はほとんど知らないわけであり、このような会に取り組んでいることも周知する。登米市は、今どの程度まで取り組んでいるのかをお知らせしながら意見を集約し、登米市に合った地域移行を進めていくために、このアンケートをお願いするんだというような書きぶりが望ましいと考える。
 - 特定非営利活動法人登米市体育協会 会長 関 壮一
 - ・ 私はアンケートについては時期尚早であると考え。地域移行の制度について先生方や住民がもっと検討する余地がある。意見を集約しないままでアンケートを取るのは、難しい点が出てくる。ルールが引かれた中で、やろうとしているようにしか感じない。あまり焦ることなく、いろんな意見を聞きながら、アンケートの内容も検討してはどうか。
- (事務局)
- ロードマップでは、アンケート調査は来年度行う予定にしており、焦りなどはない。今、お話いただいた登米市として、どのような動きをしているのかということについては県のパンフレットに盛り込んで行くことが可能である。具体的には、「登米市において現在検討委員会を実施しており、様々な意見や議論、先行実施等を踏まえながら進めていきます」というようなことを盛り込んで、アンケートとともに周知したいと考えている。次回の検討委員会で検討いただき上でアンケートを実施する方向もある。
- 登米市中学校体育連盟会長（豊里小中校長） 長倉 清敬
 - ・ 話が行ったり来たりしていますが、ただこの中で聞きたいものもある。ただ、今のご意見だと時期尚早だというようなことで、今の登米市の進捗を示すような文面をつけて、周知を1回図るということではどうか。そして、今度の3月の会議の中ではその中身の検討をしていくのはどうか。
 - 登米市スポーツ少年団 本部長 木村 健喜
 - ・ アンケートについてはやはり地域住民が現在、部活の地域移行についてどのような考えを持っているのかを知りたいと考えている。生徒達がどこに入

るのかは後回しにして構わないと考える。

- ・ 親にしても子供にしても、自分達が取り組んでいることが将来見通せないのであれば不安感を感じるのではないかと。何に対して今不安に思っているのか等、課題の整理をするためにも1度アンケートで聞いた上で来年度の準備委員会の方に持っていった方が、多分進め易い気がする。
- ・ アンケートをすべて後ろに持って行くというような話ではなくて、今必要な情報として必要なところをやるべきだと考える。

○ 登米市バレーボール協会 会長 小野寺 彰哉

- ・ 県のパンフレットによると、どうして地域移行をするのかということ少子化と働き方改革が述べられ、学校の部活動継続が難しいと記されている。その部活動をどういう形にしていくかっていうことが一番大切なんじゃないかと考える。
- ・ 働き方改革でも一番のやり玉に上がってるのが部活動になっていると感じる。しかしそうではなく、いろんな事務処理等の理由もきちんと整理した上で地域移行の形がどうあるべきかを議論する必要ある。県から出された部活動の地域移行の理由もピンとこないところがある。
- ・ 現在、部活動全員加入制とか選択制等いろんな問題もある。そういった議論をきちっと整理した上で、登米市としては、地域に合った活動の在り方を出していかないと、結論を出すは難しいと考える。

○ 登米市中学校体育連盟会長（豊里小中校長） 長倉 清敬

- ・ 平成12年に、活動を地域に移行した方がいいかどうかについてアンケートを国レベルで調査を行った。その当時、中学生の親も子供も6割ぐらいは残して欲しいという意見であった。ただ4割は移行した方がいいっていう回答であった。高校の方は、先生も保護者も50数パーセントの方々が地域移行をして欲しいと回答した。
- ・ 以前、部活動は学習指導要領の中で教育課程内というところに位置付けられていたが、教育課程外に変わった。しかし、教育課程外だが重要な教育活動の一環であり、部活動も学校の教育活動の中に残しますとなり、今の部活動になったと記憶している。
- ・ 平成13年度あたりの新人大会では、野球部が組めないということが出てきた。現在は10校の内、6校が合同チームで参加しているというのが実情になっており、部活動の運営が複雑化し難しくなってきたというのは、共通の認識となっている。多分、中学校の保護者あたりは、もう子供たちも自分たちの中学校だけではできないと考えているのではないかと。そういう意味で、少子化問題の解消や持続可能なスポーツ環境、或いはその文化環境の提供をするという国のコンセプトと登米市の現状が合致した部分もあることから、登米市では、将来的には今これを考えているとか、部活動の地域移行を知ってますか等のアンケートだといいいのかなと考えている。
- ・ 県の中体連会長の方から文書が入っており、2月の初めから中旬ぐらいに、先ほど申した、12種目28団体がクラブとして、来年度は県の大会に参加するという案内を小学校6年生と中学1年生の家庭に周知する。これは登米市でクラブチームをつくりますというのではなく、県内でこれぐらいのクラブチームが参加しますという情報提供の意味合いである。
- ・ 今年も4月に実施したが、各学校では、中体連の大会にあなたは「クラブチームと部活動のどちらで参加しますか」というアンケートを取っている。当然、登米市には登録済みのクラブチームはないことから、全員部活で参加した。今後は、どちらか一方で参加することとなる。

○ 登米市総合型スポーツクラブ連絡協議会長 佐々木 悦郎

- ・ 休日の部活動の地域移行については、働き方改革等の理由で進められているようだが、どういう経緯で現在に至っているのか。

(事務局)

→ 当初、部活動の地域移行の理由として、働き方改革がメインとなっていたが地域の活性化や子供たちの活動の保障が重要であるということから、現在の地域移行の方向性となっている。国の方も戸惑いながら進めている様子もうかがえる。登米市としても、皆さんの意見を聞きながら進めていこうという状況である。そのような中で、子供たちが活動できる場所を確保していくことをメインとして進めていきたい。

○ 登米市総合型スポーツクラブ連絡協議会長 佐々木 悦郎

・ 総合型スポーツクラブの中でも、今後、いろんな面で検討していかなければならないことがある。ボランティアで指導し、有償でないと頼みにくいところもある。そういうこともあり質問をした。

○ 登米市中学校体育連盟会長（豊里小中校長） 長倉 清敬

・ 先生方のアンケート等を取ったわけではないが、若い先生方からは「いつになったら部活の地域移行が始まるのか」や「来年度も部活をやるんですか」とか」という質問がある。部活動に対する先生方の意識も変わってきてる。

○ 登米市バレーボール協会 会長 小野寺 彰哉

・ ロードマップを見ると令和7年度の10月から、準備の整った学校や種目から休日の部活動地域移行がスタートすると記されているが、平日は部活動残るのではないかと。要するに学校部活動があって、休日に学校部活動を地域に移行した形で行い、いずれは完全にすべてが地域に移行する。いつになるかは分からないが、その間は結局学校部活動っていうのは、そのまま残っていくのではないかと。休日はその地域でやったとしても、平日は顧問の先生が指導するという形で進んでいくという理解でよいのか。

○ 登米市中学校体育連盟会長（豊里小中校長） 長倉 清敬

・ 県のマニュアルを見ると、まずは休日の部活動から、地域移行という表現なので、まずはということは、次もあると解釈している。いずれは、については令和7年度以降、後ろは求めずできるだけ早期にということとトーンダウンしてきた。

・ 私もプライベートな時間に、地域移行フォーラムがあり参加した。部活動地域移行を実施している地区の教育長が講演していたが、その学校はすでに平日の部活動も地域移行をしていた。例えば活動時間を1時間とか決めて取り組んでいた。その背景には、地域にその受け皿となるようなクラブや組織があっての話であるが、地域の枠組みに複数の学校集まって、活動しているという先進事例もあった。これらのような先進事例を踏まえながら今後、アンケート協議を重ねることとなる。

・ 現在、登米市の部活動に関しては全員加入となっている。その背景には、運動不足や生活習慣病予備軍の懸念等がある。校長会としては、部活動の地域移行の方向性がはっきりするまで原則部活動全員加入の方向で進めている。

○ 登米市スポーツ少年団 本部長 木村 健喜

・ 心配している点として今まで登米市の中でスポーツをやってきた人達が、やってもやらなくてもいいよとなった際に、例えば30%ぐらいしかスポーツをやらないという状況になることも考えられる。スポーツ人口を維持するという部分も考えていく必要がある。

(事務局)

→ 今回の話し合いの中でアンケートの取り方や内容について多くのご意見をいただいたが、アンケート内容「知っていますか」「不安はありますか」や次の検討委員会の際にどこまで何を出したらいいのか掴めていない。最後にその辺のご意見と確認をしていただきたい。

○ 登米市バレーボール協会 会長 小野寺 彰哉

・ 教育委員会の方で、またはこの検討会を進めて行く中で、一体どういう情報が必要なのかってことを考えれば、大体その項目が決まってくるのかと考える。

・ これまでの事例で、中体連の大会ではなくクラブチームの大会に出たり、学校の行事よりもスポーツの大会に出場したりすることがあった。昔は学校や友達がメインであったが、生徒や保護者の優先順位が変わってきているように思われる。

○ 登米市小学校長会長（登米小校長） 秋葉 徹

・ 私は、部活動の地域移行を「知っていますか」の質問は必要だと考える。また、「知っていますか」ではなく、こういう情報がパンフレット記されているがこのことを「分かっていたか」ということで、どれだけ浸透してたかというのを把握するのはやっぱり、必要だなというようには思いながら聞いていた。

・ 小学校でも家族の余暇の為に学校を休む際、「学校行事だから出てください」ということがなかなか言えない状況である。

・ スポーツを教えたことがない一般の保護者の立場から言うと、今何が行われているかを知りたいし、意見も言いたいと思われる。その意見を言える最初の1歩がアンケートだと思う。すべてが固まってから改めて聞くアンケートも必要かもしれないが、今現在、最初の1歩で登米市が、国や県の方針を踏まえて議論を始めているということを知る上でも、県のリーフレットとアンケートをセットにして実施することも必要であると考えている。

・ 部活動の地域移行が本格化されていくのが今の小学校3年生や4年生となる。アンケートを実施する上で、不都合がなければよい。

○ 登米市中学校体育連盟会長（豊里小中校長） 長倉 清敬

・ 小学校の立場や保護者の立場の目線からお話をいただいた。アンケートも1つの周知の一環というお話もあった。

（事務局）

→ 確認事項として最低限の情報を得るために、登米市の進め方等を記した県のパンフレットと一緒にアンケート調査の方は実施する。内容につきましては、事務局で修正等を行うが、その内容については、会長と副会長から確認と了承を得た上で実施する。

6 閉会の挨拶 副会長 関 壮一

7 閉会